



# 新生TICADに向けたNGOの提案

---

2008年2月22日(金)

自由民主党

外交調整会・国際的NGOに関する小委員会

プレゼンテーション資料

(特活)TICAD市民社会フォーラム



# 開かれたフォーラムにし、日本国民 がアフリカを応援する姿を示そう

- 世界に「日本のアフリカへの取り組みは変わった」と宣言できる会議に大転換しましょう。
- 日本の切り札は「国民みんなでアフリカを応援する姿勢」です。

## そのためには・・・

1. 政府同士の密室会議から脱却しよう
2. アフリカと日本から、熱意と力のある人たちを幅広く招待しよう
3. 世界に完全公開し、注目を集めよう
4. 「横浜宣言」はみんなの知恵を結集し総意で！



## 会議のテーマを

# 「貧困削減・格差是正」に絞ろう

- 現在の経済成長は大多数のアフリカ貧困者に実感されず、格差の拡大が政治・社会の不安を引き起こしています。
- 気候変動は貧困者の生活に悪影響を及ぼしていますが、現在の議論は貧困者の脆弱性の緩和に向かっていません。
- 「資源価格高騰の活用」「環境に優しい」の掛け声の下、貧困者の脆弱性を悪化させる事業すら出てきています。  
(例：バイオ燃料生産のための大土地接取)

そこで・・・

- 経済成長/人間の安全保障/環境のいずれの議題も、すべては貧困をなくすという共通の目標を心がけよう！  
(Pro Poor志向)

# 日本の本気度を世界に示そう

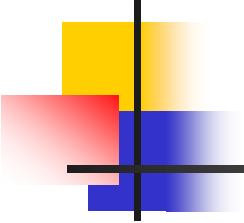
～TICAD IV・洞爺湖サミットに向けた約束

「小泉宣言（2005）」を誠実に履行し、さらに発展させる必要があります。

そのためには・・・

- ODA倍増公約を真水で（\*）履行しよう
- 2013年（TICAD V開催予定年）までに、
  1. ODAの対GNI比0.7%目標を達成しよう
  2. アフリカ援助を4倍に増やそう

（\*）真水＝債務削減を含まない



# アフリカと日本の絆を みんなで作ろう

アフリカと日本の「遠さ」を克服するには、新しい、より太い関係づくりが不可欠です。

そこで・・・

- 「アフリカ・日本新パートナーシップ宣言」をアフリカ・日本の市民と共に考え、採択しよう
- すべての開発プロセスに市民社会を入れよう
  - 計画策定から実施・モニタリングまで（例：国別援助計画）
  - 債務削減プロセスへの市民社会参加を拡大し、国民のアフリカ支援への理解を獲得しよう
- アフリカ・日本の市民社会の活動、そして両市民社会間連携を応援しよう



# TICAD IVはアクションを導くものに ～具体的な取り組みを考え、発表しよう

より大きな成果を生み出すために、多様なステークホルダーが各自の知恵/経験/技術/資源を持ち寄り、企画段階から共にアクションを考え、調整し、実施しましょう。

そのためには・・・

- 市民社会を含むアフリカ開発のマルチ・ステークホルダー会議を定期的 to開催しよう

TICAD IVに向けては、次の事業を考えてみよう・・・

- Pro-Poor環境イニシアティブ
- 3万人エクステンジ・プログラム
- アフリカ・パートナーシップ基金
- 円借款の市民社会評価と今後の提案 (次頁補足)

## Pro-Poor環境イニシアティブ: ガボン準備会合に環境セッションを

- 日本は100億ドルの環境イニシアティブを発表し、うち無償と技術協力部分はアフリカを主な対象とするとしています。この資金の使い道は、草の根の市民組織とともに考えることが絶対に必要です。異常気象の第一の犠牲者は貧困者であり、また地球の一方の肺である熱帯雨林を守っているのは貧困者たちなのです。貧困者抜きの環境プロジェクトは成果が上がりません。そして時には貧困者を傷つけることがあります。
- 3月に開催されるガボンのTICAD準備会合に、市民社会、研究者を加えた環境セッションを設け、日本の資金利用に関するTICADへの提言作りを行うことを提案します。

## 3万人エクステンジ・プログラム

- アフリカと日本の市民社会組織間の連帯強化のために、5年間で3万人の交流を目標とするエクステンジ・プログラムに公的支援を行います。NGO(アフリカ)と企業(日本)に、3ヶ月のインターンを派遣します。

## アフリカ・パートナーシップ基金

- 新しい協力への転換を促進するための試みです。同基金では、アフリカと日本の政府・市民社会が資金の配分、執行制度作り、モニタリングについて対等に協議します。アフリカの現実に適した方法で、効率的で貧困者に届く援助を試行します。そして、日本のアフリカ向けODAを漸次この基金に移行することを提案します。

## 官・民・市民の合同評価で、役に立つ援助と円借款を提案

- アフリカの市民・企業とともに合同評価を行い、円借款を含むこれまでのODAを総点検し、アフリカに役立つODA円借款を提案します。とりわけ円借款については、日本は近年債務放棄を進めており、有効な活用のためには過去の教訓を学び、アフリカに適した制度を作ることが求められています。それには地元の知恵が不可欠であり、貧困者を支援する市民組織や経済発展を担う企業の参加が不可欠です。

## アフリカを熟知する新しい援助チームづくり

- アフリカのことにはアフリカ人が一番よく知っています。貧困者に役に立つ援助には、アフリカの市民組織の参加なしにはありえません。アフリカ各国で、日本との協力委員会を作り、援助計画を作ります。そこには、大使館・JICAに加え、現地政府と日本および現地の市民組織が参加し、ODAの計画決定から執行・モニタリングに至るまでパートナーシップに基づいて協力を進めます。国別援助計画がすでに存在する国では、これに参加することになります。



# 新生TICADの今後のために ～TICAD IVからTICAD Vを見据えて

やりっぱなしのただの会議では、社会的責任を問われかねません。TICAD IIIでの小泉議長の総括を履行し、次につながる会議メカニズムを、今度こそ共につくりましょう。

そのためには・・・

- 他ドナーのフォーラムと競争するのではなく、
- TICADをアフリカ連合（AU）の開発フォーラムへと転換し、アフリカ・オーナーシップを高めよう
- 独立した常設の事務局を外務省外につくり、その運営は日本政府・アフリカ政府・市民社会で協力して進めよう
- 横浜に続き、他の自治体で開催し、日本社会の理解と関与を深めよう